

アヲハタグループ

# 環境報告書2002



アヲハタ株式会社

# 目 次

目次	1
ごあいさつ	2
会社概要	3
会社概要・事業内容・関連会社	
売上高・従業員数(連結)推移・売上高構成比(連結)	
経営理念	4
経営理念・社訓・社是	
環境基本方針	
安心で豊かな食生活に貢献	5
原料・容器・梱包材	
環境保全活動への取り組み	7
ジャム製造における環境負荷の状況	
省エネルギーの推進・廃棄物再資源化の推進	
グリーン購入の推進・身近な省エネ活動	
地域社会との共生	13
法規制遵守・社会活動	
環境マネジメントシステム	14
組織図・継続して改善していくために	
ISO14001・環境監査・環境会計	
環境教育・緊急時への対応	
環境コミュニケーション	
歴史	18

## 環境報告書の対象範囲

対象組織：主要な実績については、アヲハタグループの生産工場であるアヲハタ(株)ジャム事業本部、東北アヲハタ(株)、芸南食品(株)のデータを集計し記載しました。

環境保全の取り組みに関しては、アヲハタ(株)管理本部、東京本部、品質管理部、果実加工研究センター、生産技術部およびアヲハタグループの主要関連会社の内容も含んで記載しております。

対象期間：2000年11月1日～2001年10月31日

## ごあいさつ

20世紀、特に先進諸国における産業の発達は、人々の生活を物質面で豊かにしてくれましたが、著しく発展し続けた世界経済は、生態系維持能力を超え、さまざまな深刻な問題が表面化してきました。

「環境の世紀」と言われる21世紀を迎え、持続的発展が可能な循環型社会へと転換していくためにも、私たち一人ひとりが環境問題について考え、具体的な環境保全活動を推進していくことが必要であると思います。

アヲハタグループにおきましても環境保全活動は、企業が果たすべき重要な社会的責任と認識し、「アヲハタグループ環境基本方針」のもとに、環境経営の基本ツールとしてISO14001に基づく環境マネジメントシステムの構築を進めています。2001年度はジャム事業本部に続きアヲハタグループ本社サイトがISO14001の認証を取得しました。今年度は子会社である東北アヲハタ(株)、芸南食品(株)で認証を取得し、全社取得を目指しています。

具体的なテーマとしては、環境に配慮した包装材料の使用をはじめ、事業活動における使用エネルギーの削減、廃棄物の再資源化・再利用、グリーン購入の推進などの活動に取り組んでいます。今後は、環境会計、ゼロエミッションへの取り組みなどへ目標を高め、自然環境、地域に貢献する企業市民を目指していきたいと思ひます。

このたび、アヲハタグループの環境保全への姿勢と取り組みについて、ご理解いただくために、環境報告書としてとりまとめました。

より多くの方々にお読みいただき、ご意見をお聞かせいただければ幸いに存じます。

2002年6月

取締役社長 多智花 宏治

# 会社概要

## 会社概要・事業内容

(2001年10月31日現在)

・商号	アヲハタ株式会社
・創業	1932年12月
・設立	1948年12月
・資本金	6億4,440万円
・事業所	
本社	広島県竹原市忠海中町一丁目1番25号
東京本部	東京都渋谷区渋谷一丁目17番6号 水野ビル2階
ジャム事業本部 (忠海工場)	広島県竹原市忠海中町一丁目2番43号

アヲハタグループは、アヲハタ株式会社と子会社9社で構成され、ジャム類(ジャム、マーマレードなど)、調理食品類(パスタソース、料理用ソースなど)、産業用加工品類(主に産業用のヨーグルト用フルーツソース)などの食料品の製造および販売を主な内容とし、その他に関連事業としてサービス業などの事業活動をおこなっています。

## 関連会社

東北アヲハタ(株)  
調理食品類、フルーツ加工品、OEM菓子類の製造・販売

(株)エイエフシイ  
加工用原料の仕入れ及び販売

芸南食品(株)  
各種レトルトパウチ食品、フルーツ加工品、  
OEM菓子類の製造・販売

(株)ピーエフ情報サービス  
コンピュータシステムの構築、運用管理  
コンピュータによる情報の提供、計算の受託  
コンピュータ・通信機器の販売・保守・管理  
およびソフトウェアの開発

忠海食品(株)  
ジャム類、ジャム用原料の  
一次加工品の製造・販売

(株)アヲハタエフエムサプライ  
農畜水産加工品の開発・輸入・仕入れ及び販売  
食品製造機械の販売

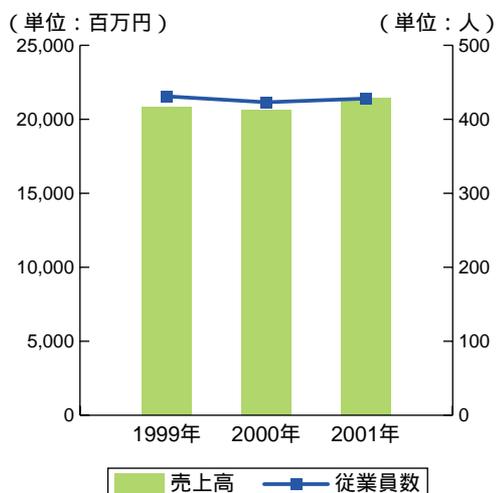
(株)アヲハタ興産  
不動産賃貸業、  
グループ会社の福利厚生サービス  
自動車のレンタルならびにリース業、旅行業  
アートギャラリーの営業、DTP事業

アヲハタ(株)

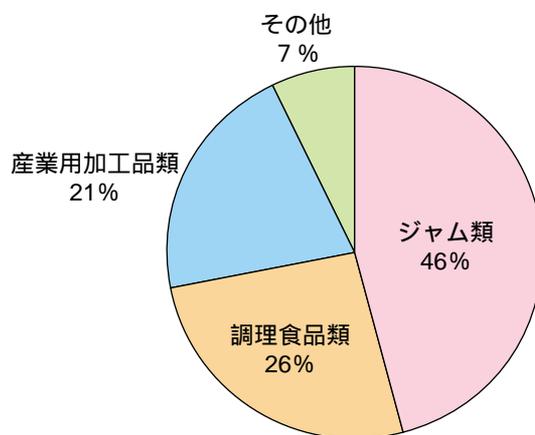
テクノエイド(株)  
食品製造設備の導入・設置、保守管理業務  
食品製造機械の販売業務  
環境衛生の為に防虫防鼠、サニタイズなどの業務

レインボー食品(株)  
缶詰を主とした地域特産品(牡蠣加工品、ジャムなど)  
牡蠣エキスおよびその他の健康食品などの販売

## 売上高・従業員数(連結)推移



## 2001年度売上高構成比(連結)



# 経営理念

## 経営理念

当社は、みかんの缶詰加工とオレンジマレードなどのジャム類の製造を目的として、1932年に現：広島県竹原市忠海中町で創業しました。「農産加工の美味しさは、その原料によって7割が決まる」の信念のもと、当時すでに柑橘類の最優良産地であった瀬戸内海に位置する当地を選び、産地の真ん中で良質の原料選びと技術中心の経営を進めてきました。

創業者である廿日出要之進がいつも唱えていた言葉は、「缶詰は中身が見えないからこそ、これを製造する人は正直でなければならない」でした。以来、「食品の基本である安全、安心、美味しさはもとより、最高の品質をお買い求めやすい価格でお届けすること」を最大のテーマに一貫して取り組んできました。

社訓、社是は、こうした実践の中で培われてきました。

### 社 訓

正 直

安全と衛生を第一とすること

信 用

最高の品質を追求すること

和

生産性の向上を図ること

### 社 是

## アヲハタグループ

## 環境基本方針

私たちは、創業以来自然の恵みである果実を中心に、農畜水産物を原料として製品づくりをおこなってきました。創業の地である忠海・竹原は瀬戸内海国立公園の一角に位置し、また、東北アヲハタ(株)のある山形県の大石田町も奥羽山脈と出羽三山に囲まれた最上川沿いの自然豊かな地にあります。これらの自然環境は、私たちに美味しい味づくりに必要な優しい感性を育んでくれました。会社もそこに集う皆も「恵み大きい自然、地球に感謝し、永遠にその恩恵を享受できるように環境保全には誰よりも進んで努力する」

この思いを込めてアヲハタグループの環境基本方針を次のように掲げました。アヲハタグループは、

1. 安心で豊かな食生活に貢献

1. 環境保全活動の推進

1. 地域社会との共生

を社会的責任として認識し、安全、安心にして美味しい食品の提供、環境保全のための管理システムおよび活動の充実、地域から信頼される事業活動の展開を継続、推進してまいります。

## 原料

### 農薬使用量を最小限に

#### ジャム原料の農薬管理

##### 基本姿勢

創業以来「よい製品は、よい原料から」の考え方のもと、良質の原料を安定的に調達することに努力してまいりました。現地で栽培から原料処理工場における加工技術、品質管理指導をおこなうことを基本とし、食品衛生法に適合した安全な原料の確保に取り組んでいます。



原料収穫風景

##### 農薬の使用管理

農薬に関しましては、各産地、品種ごとに使用した農薬の調査・把握をおこない、農薬の種類およびその使用方法が適正であったかの確認をおこなっています。

また、必要に応じて公的な農薬使用基準に基づいた栽培指導をおこなっています。

##### 安全性の確認

原料は、使用した農薬の調査・把握の結果に基づき、毎年、各産地、品種ごとに分析をおこない、食品衛生法に適合していることを確認しています。

また、製品につきましても定期的に分析をおこない、安全性を確認しています。

##### 自然環境への配慮

原料の安全性を高める取り組みとして、栽培者の協力のもとで畑のサニテーション（清掃活動）などをおこない、栽培時の農薬の使用量を必要最小限にとどめるとともに、環境保全の観点からも自然環境への負担をできるだけ少なくするよう努力しています。

## 容器

### 軽量化への取り組み・リサイクルしやすい容器の開発

容器包装は、安全性を考慮するとともに軽量化、リサイクルしやすい材質への変更、リサイクル資源の利用、有害物質の排出抑制など環境負荷を減らす設計をおこなっています。

#### ガラスびんの軽量化



軽量化に取り組んだびん

主要製品である「アラハタ・55ジャム」のびんは、1994年から段階的に軽量化に取り組み14～15%軽量化しました。また2001年度はその他一部のびんも軽量化し、その成果として2001年度は94年と比較しガラスの使用量を年間で1,107 t 削減しました。

今後、他のびんの軽量化にも取り組んでまいります。

#### 脱塩化ビニルへの取り組み

ジャムびんの密封には金属製キャップと塩化ビニル系プラスチックを使用していますので、現在キャップメーカーと塩化ビニル系以外の素材開発を共同で進めています。

## 環境ホルモン低減への取り組み



環境ホルモン対策を施した缶

パスタソース缶詰は、内面塗料材に含まれる環境ホルモン（ビスフェノールA）を減らした缶を容器メーカーと開発、2001年からその缶に全面的に切り替えました。

## 省エネルギー容器の使用



アルミレスパウチを採用

アルミニウム箔を使用しない省資源型のアルミレスレトルトパウチを容器メーカーと共同で開発いたしました。

アルミニウム箔使用のレトルトパウチと比較して、容器製造時のエネルギー消費量が少ない、というメリットがあります。

## 梱包材

## 減量化、簡素化

### バルク輸送

産業用フルーツ加工品を大量に使用されるお客様にはコンテナでの配送をおこない、また購入資材類（空びん、空缶、砂糖や液糖など）はバルク輸送に切り替えて、省資源に努めています。



産業用フルーツ加工品配送コンテナ

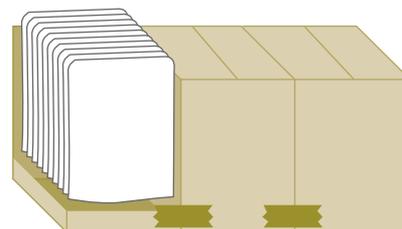


梱包材がいないバルク輸送

### レトルトパウチ製品の梱包

2000年よりレトルトパウチ製品には小分け機能を持ち、結束バンド不要の3ジョイントボックス方式を採用しました。

結束バンドをなくし、省資源化に取り組んでいます。

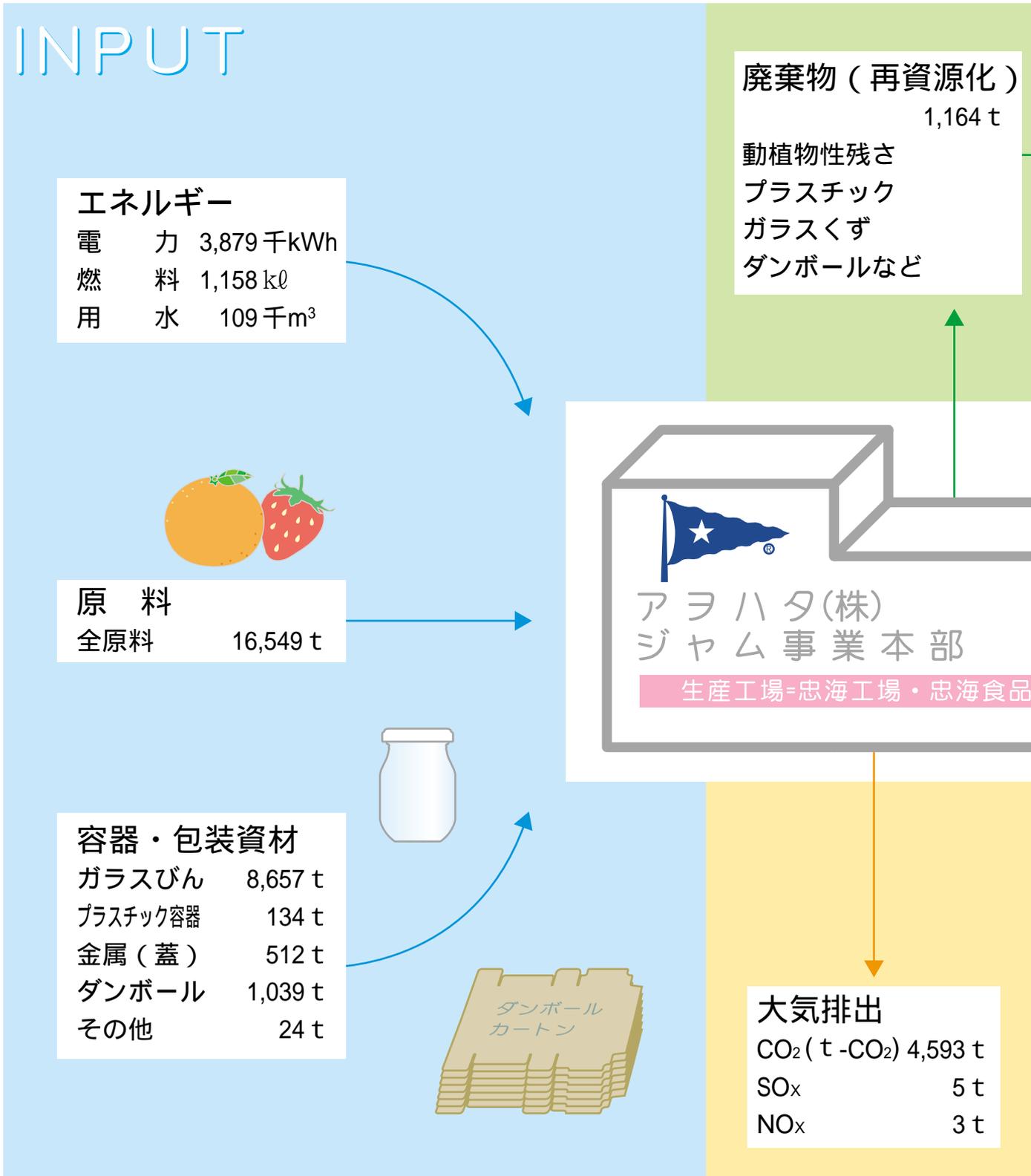


3ジョイントボックス

## ジャム製造における環境負荷の状況

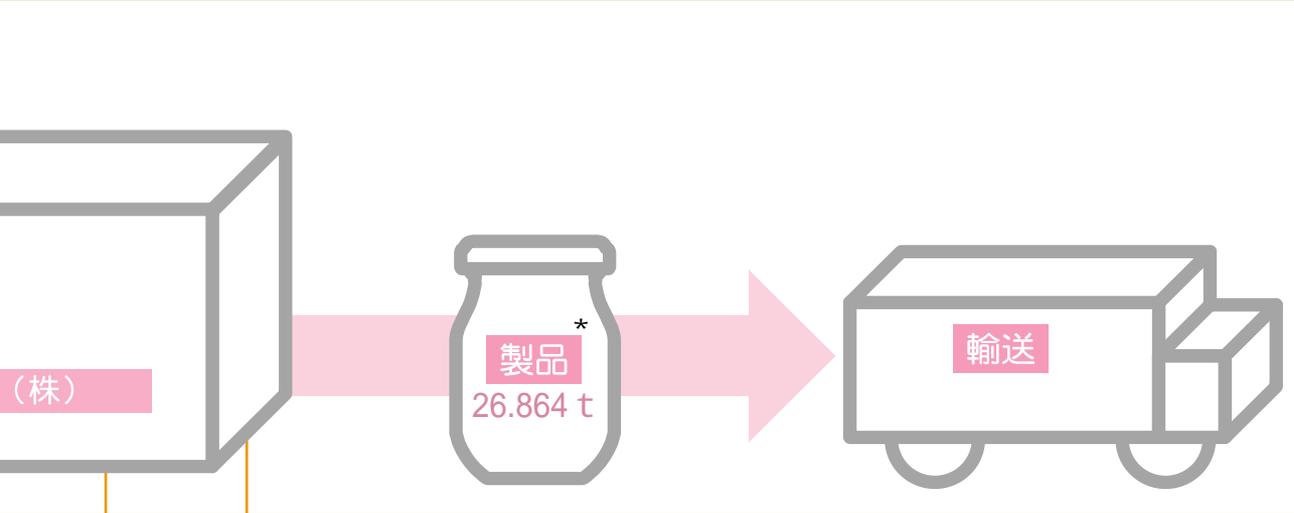
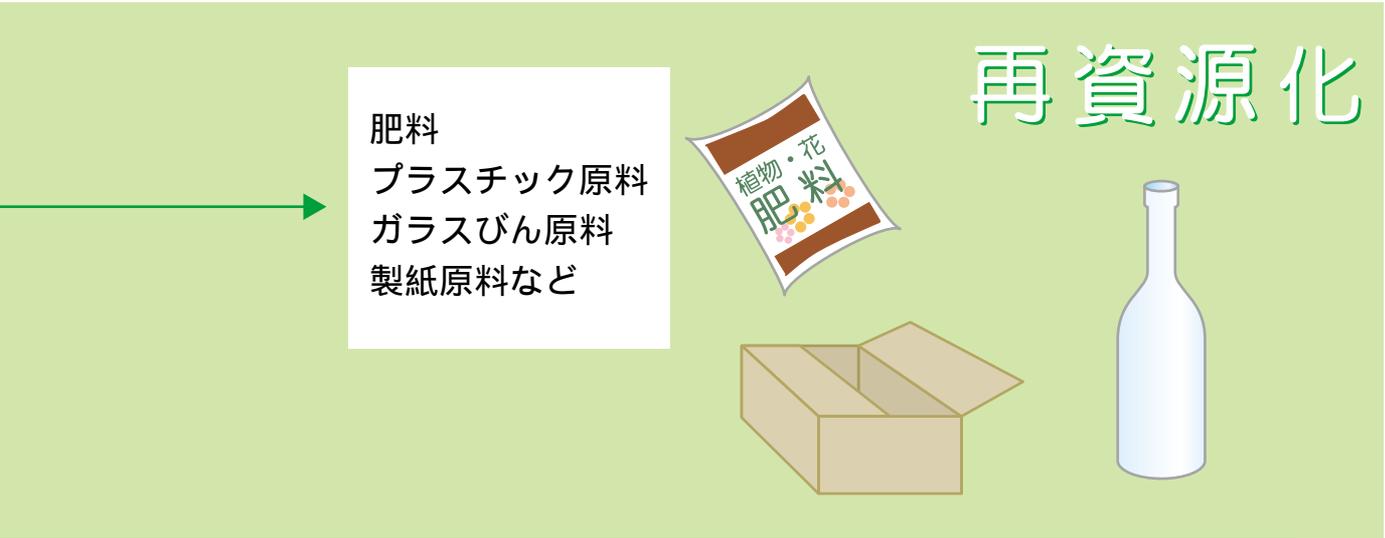
環境保全活動を進めるにあたっては、自らの環境負荷の全体像、つまり事業活動のライフサイクル全体を把握し、環境負荷の低減に努める必要があります。

下記の図は主要事業であるジャム製造における環境負荷の状況を示したものです。今後はアヲハタグループ全体で物質フローの調査を進め、事業活動のライフサイクル全体像を把握し、環境負荷の低減に努めてまいります。



再資源化率  
87%

ジャム製造の物質フロー（2001年度）



排水  
104千m<sup>3</sup>

廃棄物（焼却・埋め立て）  
170 t  
紙くず  
プラスチックなど

OUTPUT

\* 製品の重さは、ジャムの内容物と容器、包材の合計です。



# 環境保全活動への取り組み

## 省エネルギーの推進

エネルギー量を生産原単位で表現

食品製造にあたって、生産する食品の量が増えるのに比例して、生産時に消費するエネルギーの総量も増加します。よって消費されたエネルギーの総量を生産数量で割った値（生産原単位：1 t 当たり）を算出し、この値で管理するとともに削減に努めています。

アヲハタグループの工場はエネルギー管理指定工場ではありませんが、省エネルギー法の「エネルギー消費原単位を年平均1%以上低減させる」を受けて活動してまいります。

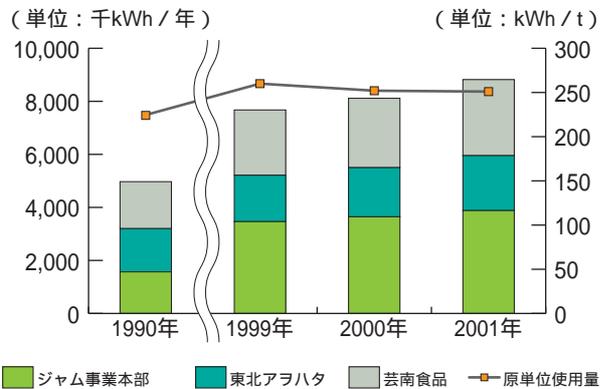
### 電力

2001年度の生産における電力消費量は8,820千kWh / 年で、生産原単位は251kWh / t でした。1990年度に対し生産原単位で11%増加してしまいました。

1990/2001  
11%  
UP



太陽光発電の実証運転



生産工場では、省エネルギーへの取り組みとして、汎用ポンプをインバーター駆動式のポンプに順次変更しています。

また、新しいエネルギーの利用研究として太陽からの光エネルギーを電気に変換する太陽光発電の実証運転を続けています。

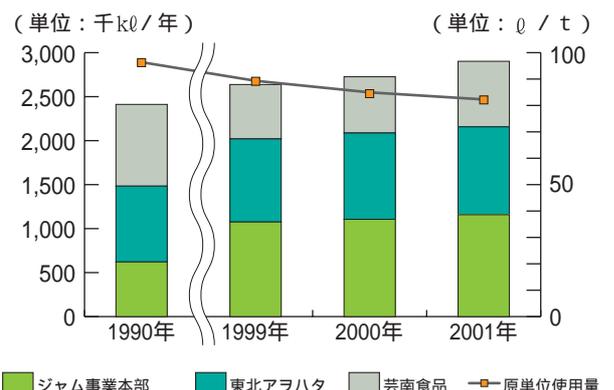
東北アヲハタ(株)では、昼間電力のピーク対応として夜間に氷蓄熱をおこない、昼間の電力負荷を平準化させています。

### 燃料

2001年度の生産における重油の使用量は2,902千kℓ / 年で、生産原単位は83ℓ / t でした。1990年度に対し生産原単位で14%削減することが出来ました。

1990/2001  
14%  
DOWN

ボイラーで発生した蒸気は、製造に使用されると冷えて70 くらいの温水になります。これを回収し、ボイラーの使用水に再利用しています。



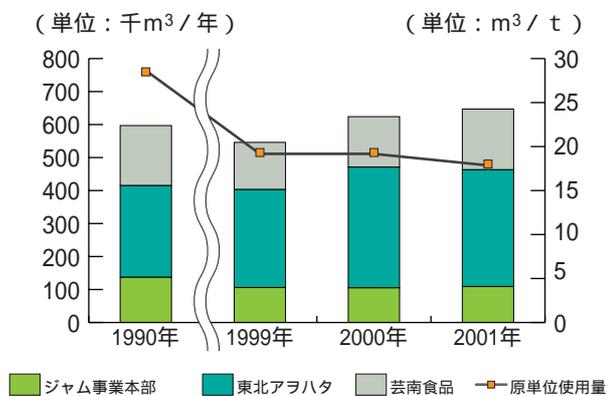
# 用水

2001年度の生産における水の使用量は647千 $m^3$ /年で、生産原単位は18 $m^3$ /tでした。1990年度に対し生産原単位で34%削減することが出来ました。

1990/2001  
34%  
DOWN



回収した冷却水を植木の散水に使用



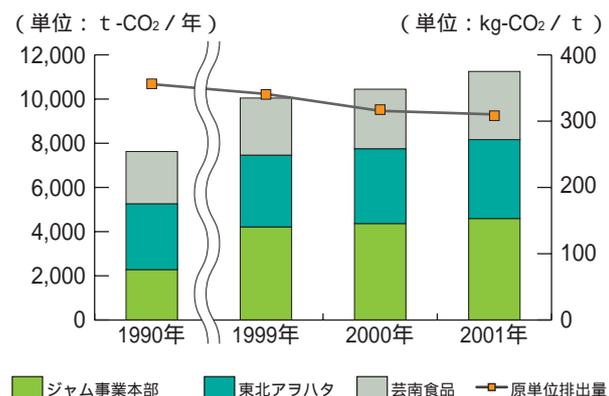
水の生産原単位の削減のため、冷却水を回収し、一部は再度冷却水として使用、残りはトイレの水や散水用の中水として使用しています。

# CO<sub>2</sub>

2001年度の生産におけるCO<sub>2</sub>の総排出量は11,187 t-CO<sub>2</sub>/年で、生産原単位は318kg-CO<sub>2</sub>/tでした。1990年度に対し生産原単位で10%削減することが出来ました。

1990/2001  
10%  
DOWN

今後も省エネルギーと生産効率の向上により、CO<sub>2</sub>の生産原単位の削減を図ってまいります。



## 廃棄物再資源化の推進

生産活動や事務部門での取り組みを含めアヲハタグループ全社で下記の事に取り組んでいます。

- ・全従業員に廃棄物の分別の必要性を教育する。
- ・廃棄物の担当者を決め、分別の徹底をおこなう。
- ・産業廃棄物処理業者への現地視察を定期的におこない、処理の実態を把握する。

### 生産工場の取り組み

2001年度は

- ・廃プラスチックの固形燃料化
- ・木製パレットの堆肥化
- ・動植物性残さの飼料化

の取り組みなどにより再資源化率が2000年度と比較して4%アップし86%となりました。

自然の恵みから得られる原料を最後まで有効利用できるよう、今後も再資源化率を向上させ、焼却・埋め立て処分をゼロとするゼロエミッションを目指します。



ジャム事業本部のリサイクルステーション

### 工場別の廃棄物再資源化状況

事業所	2000年		2001年	
	発生量 ( t )	再資源化率 ( % )	発生量 ( t )	再資源化率 ( % )
ジャム事業本部	1,217	85	1,334	87
東北アヲハタ ( 株 )	923	81	826	90
芸南食品 ( 株 )	717	78	607	79
合 計	2,857	82	2,767	86

### 項目別の廃棄物再資源化状況

項目	2000年		2001年		主な再生用途
	発生量 ( t )	再資源化率 ( % )	発生量 ( t )	再資源化率 ( % )	
動植物性残さ	997	87	884	96	飼料、肥料
廃プラスチック ( ペール缶など )	697	59	734	62	容器、プラスチック原料
金属類	385	100	341	100	亜鉛の触媒
汚泥 ( 排水汚泥 )	285	94	339	95	肥料
紙くず類 ( ダンボールを含む )	375	86	280	89	紙原料
ガラスくず	85	100	84	100	ガラスびん原料
木くず ( パレット )	21	0	85	94	堆肥
その他	12	0	20	0	
合 計	2,857	82	2,767	86	

## グリーン購入の推進

グリーン購入の基本的な定義は、第三者機関が発行する環境ラベル（エコマークなど）が表示されている物品を購入することとし、購入時に価格、機能と共に環境ラベルの有無も考慮して選択しています。既に、環境ラベルのついた物品に順次切り替えています。2002年度中には目標値に沿った管理をおこなう予定です。下は実施済みのものです。

### 名刺・P P C用紙

名刺は、1999年3月より古紙100%のものを使用しています。またP P C用紙については1999年9月より古紙配合率100%、白色度70%の用紙を使用しています。また、総排出量の抑制になるように裏面の再利用、両面印刷の推進を呼びかけています。

### 会社案内・事業報告書

会社案内、事業報告書については、R（再生紙使用）マーク認定の再生紙を使用しています。

### 紙コップ

事務所で使用する紙コップは、非木材紙でできたものを使用しています。



再生紙の名刺やPPC用紙



非木材紙使用の紙コップ

## 身近な省エネ活動

### 空調管理とノーネクタイ運動

夏の冷房は27℃以上に、冬の暖房は20℃以下になるように管理し、冷暖房が過度にならないようにしています。また、一年の中で7～9月の暑さが厳しい時期はノーネクタイ運動として、オフィスではネクタイを外すよう奨励し、冷房の使用を控えるのに役立てています。



ノーネクタイ期間のお知らせ

## 法規制遵守

環境保全に関わる法規制として、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、騒音規制法、廃棄物処理法などの法律・条例の適用を受けています。

2001年度は法律違反や事故は発生していません。

### 大気汚染の防止に関する取り組み

大気汚染防止に関しては廃棄物焼却設備とボイラー設備が対象となります。

廃棄物焼却設備については全て廃止しました。

ボイラー設備については運転管理を十分におこない、SOx、NOxなどの発生を少なくするように努力しています。

### 水質汚濁防止に関する取り組み

工場からの排水は、工場内の排水処理設備で処理し、河川・海域に排出しています。水質汚濁防止のため、法律・条例で決められた規制値より厳しい自主基準値を設定して、規制値の遵守に取り組んでいます。

### 騒音防止に関する取り組み

近隣の民家に配慮して

- ・工場に出入する原資材の搬入、製品の運搬車両に対し、アイドリングをしないように依頼しています。
- ・待機中の車両には近隣の民家に影響を与えない場所を指定し、駐車をお願いしています。
- ・工場内使用のフォークリフトの走行音、バック音を抑制しています。

騒音に関する指摘事項

ジャム事業本部サイトにおいては、工場の近隣の方から下記のような指摘を受け、改善処置をおこないました。

今後も近隣の方々とのコミュニケーションを図り、継続的な環境改善に努めてまいります。

工場の近隣の方からご指摘を受けた事項

区 分	ご指摘内容	対応処置
騒音関係	駐輪場出入り時の溝蓋の音(1件)	蓋の補修と固定およびクッション材の設置

## 社会活動

ボランティアによる環境保全活動

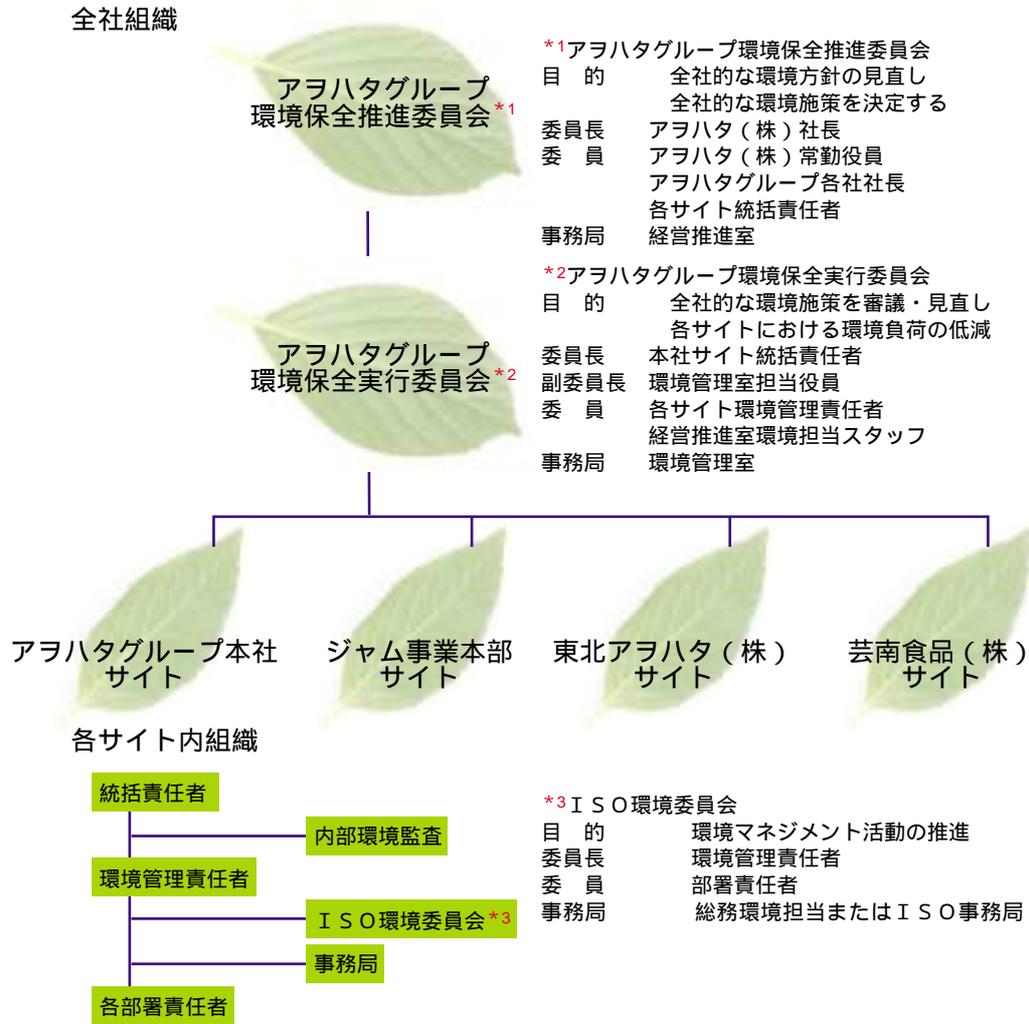
アヲハタグループでは、これまで自治体などが主催する清掃活動などの環境美化活動に、社員個人個人のボランティア活動で参加してきました。



地域の環境整備活動への参加

# 環境マネジメントシステム

## 組織図



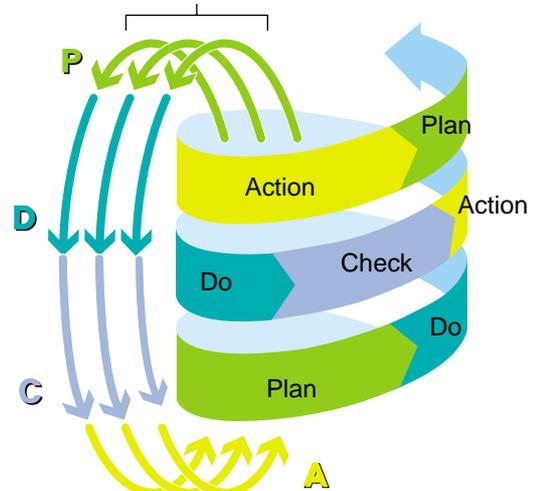
## 継続して改善していくために

継続的改善を推進する仕組みとして環境マネジメントシステムの構築を進めています。

アラハタグループ全体の P D C A (Plan - Do - Check - Action) サイクルを回すとともに、各サイトでの P D C A サイクルを回し、環境負荷の削減を効果的に実現出来るよう推進してまいります。

## グループ環境マネジメントシステムの概念図

### 各サイト環境マネジメントシステム



## ISO14001



### ISO14001の認証取得

1999年12月にジャム事業本部サイトが、2001年10月にアラハタグループ本社サイトがISO14001の認証を取得しました。

次のステップとして、2002年10月までに東北アラハタ(株)サイト、芸南食品(株)サイトでの認証取得を目指して取り組んでいます。

2社の認証取得によりアラハタグループ全体でISO14001の環境マネジメントシステムの導入が完了します。アラハタグループ全体の力を結集して環境保全活動を推進し、継続的な改善を図ってまいります。

認証取得時期	取得事業所
1999年12月	ジャム事業本部サイト
2001年10月	アラハタグループ本社サイト
2002年10月予定	東北アラハタ(株)サイト 芸南食品(株)サイト

## 環境監査



審査風景

環境マネジメントシステムの向上には、環境監査が重要な役割を担っています。ISO14001の認証取得事業所では、計画に沿って内部環境監査および外部認証機関による審査をおこない、システムの向上を図っています。

環境監査の充実を図るため、教育の一環として外部の講習会などに参加し、十分に教育を受けた者が内部環境監査員となります。

### 内部監査員登録者数 (2001年11月現在)

ジャム事業本部サイト	14名
アラハタグループ本社サイト	14名
その他有資格者数	10名

内部環境監査、外部審査の結果重大な不適合事項はありませんでした。

## 環境会計

環境会計には、内部機能と外部機能があります。

アラハタグループでは内部機能として、環境保全活動にかかったコストを定量的に把握し、効果と対比することによって、投資計画に反映させ活用することを考えています。

また、外部機能としては集計結果を外部に公表することによって、環境保全活動への取り組みをご理解いただくための手段として活用していくことを考えています。

2002年度のデータを集計し、環境会計に取り組んでいきます。

## 環境教育

環境保全の重要性の理解と、活動を推進するための幅広い技術・知識が環境保全活動には必要です。社員一人ひとりの環境に関する意識を高めていくことを目的として、継続的に教育をおこなっています。

### 新入社員教育

環境への取り組み姿勢の理解、業務の中で環境という視点を持たせることを目的として、2001年4月からグループ新入社員研修のカリキュラムに環境保全活動についての時間を設けました。

### 環境関連教育

サイトごとに環境に関する教育・訓練の実行計画を立てて、一般教育や専門教育を定期的 to 実施しています。

### 環境関連の公的資格保有者数（2001年10月31日現在）

区分	関連する公的資格	保有者数
廃棄物関係	特別管理産業廃棄物管理責任者	7
	廃棄物処理施設技術管理者	1
水質関係	水質関係第四種公害防止管理者	49
大気悪臭関係	大気関係第四種公害防止管理者	5
エネルギー	電気主任技術者	2
	電気工事士	15
危険物関係	毒物・劇物取扱責任者	5
	防火管理者	28
	消防設備士	10
	危険物取扱者	154
労働安全衛生	衛生管理者	46
	ボイラー整備士	3
	ボイラー技士	43
	有機溶剤作業主任者	6
	特定化学物質作業主任者	16
	乾燥設備作業主任者	3
	エックス線作業主任者	3
	第二種放射線取扱主任者	2
その他	環境計量士	1
	薬剤師	1

## 緊急時への対応

緊急時の備えとして2001年9月に危機管理マニュアルの中に「環境汚染危機管理マニュアル」を作成しました。事故などにより水質汚濁、大気汚染などの環境汚染を発生させた場合に備えて、組織と連絡経路を明確にしました。

ISO14001認証取得事業所では想定される緊急事態に備え、定期的に訓練を実施しています。



重油流出事故に備えた訓練の様子

# 環境マネジメントシステム

## 環境コミュニケーション

### 環境報告書の発行



昨年の環境報告書

環境保全活動の取り組みへの理解を深めるため、2001年6月に社内教育用資料として「環境報告書2001」を作成しました。

このたびより多くの方にアヲハタグループの取り組みを知っていただくため、外部にも公開する「環境報告書2002」を作成しました。

今後とも引き続き内容の充実に努め、継続的に作成し、積極的に配布していきます。

### ホームページでの情報発信



環境への取り組みのページ

アヲハタ・ホームページ『Fruits Wonderland』(URL <http://www.aohata.co.jp/>)では、「アヲハタグループ環境基本方針」とアヲハタグループ本社サイトとジャム事業本サイト部の「環境方針」を掲載しています。

今後は環境保全活動への取り組み情報を掲載するなど、内容の充実に努めます。

### 工場見学者へのアピール



リサイクルステーション

ジャム事業本部サイト(忠海工場)では、一般の方々の工場見学を受け付けています。製品がどのように製造されているのを実際にご覧になって安全性を確認していただくとともに、工場から出る廃棄物のリサイクルや排水処理についてもご説明し、環境保全活動への取り組みを紹介しています。2001年度の工場見学者数は3,416人でした。

今後は、家庭での環境保全活動の参考にしていただけるよう、内容を充実させていきます。

### 事業報告書・アンケート調査への回答



事業報告書

半期ごとに株主様にお届けする「事業報告書」の中で当社の環境保全活動への取り組みを紹介しています。

また官公庁はじめ各種団体からの環境問題に関する調査には積極的に回答しています。(2001年度回答件数:18件)

アンケート調査については引き続き積極的に協力していきます。

# 歴史

西暦	社会の動き	当社の取り組み
1967	・公害対策基本法制定	
1970	・水質汚濁防止法制定	
1971	・環境庁設立 ・ラムサール条約採択	
1972	・自然環境保全法制定 ・国連人間環境会議（ストックホルム）開催	・排水処理装置の導入 （ジャム事業本部：活性汚泥） （芸南食品（株）：回転円盤＝RBC） ・みかん外皮乾燥装置導入
1973	・瀬戸内海環境保全特別措置法制定	
1974		・東北アヲハタ（株）の排水処理にMOラグーンシステム導入 ・ジャム事業本部に砂糖バルク輸送導入
1976		・みかんの排水処理にメタン醗酵システム導入
1985	・ウィーン条約採択（オゾン層の保護）	
1987	・オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書採択	
1990		・使用水削減のため、冷却水にチラー装置導入（ジャム事業本部）
1991	・経団連地球環境憲章策定	・ジャム事業本部、芸南食品（株）：外部委託による植物性残渣の再資源化（肥料化）開始
1992	・通産省ボランティアプラン策定 ・地球サミット開催され、リオ宣言採択	
1993	・環境基本法制定	
1994		・ジャム事業本部にメタン醗酵と活性汚泥を組み合わせた排水処理施設を設置
1995	・容器包装リサイクル法施行	
1997	・地球温暖化防止京都会議開催 ・廃棄物処理及び清掃に関する法律大幅改正	
1998	・地球温暖化対策の推進に関する法律制定	・環境管理室設置
1999	・ダイオキシン類対策特別措置法制定 ・PRT法制定	・アヲハタグループ環境基本方針策定 ・ジャム事業本部サイトにてISO14001認証取得 ・太陽光発電システムの導入 ・ハイブリッドカーの導入
2000	・循環型社会形成推進基本法制定 ・食品循環資源の再利用などの促進に関する法律（食品リサイクル）制定 ・容器包装リサイクル法完全施行	
2001	・食品循環資源の再利用などの促進に関する法律（食品リサイクル）施行 ・特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）施行	・東北アヲハタ（株）氷蓄熱導入 ・アヲハタグループ本社サイトにてISO14001認証取得 ・社内焼却炉を全て廃止 ・社内用環境報告書作成



発行・連絡先

アヲハタ株式会社品質管理部 環境管理室  
担当 大胡

〒729-2392 広島県竹原市忠海中町一丁目1番25号

T E L : 0846-26-0113 F A X : 0846-26-3166

U R L : <http://www.aohata.co.jp/>